

松本市地域づくり推進交付金実績報告書

2025年3月31日

(あて先)松本市長

(申請者) 島内地区町会連合会

1 交付決定額

I	金 750,000 円
---	-------------

2 本年度実績の報告

(1) 本年度の交付金事業の報告

① 事業名: 遊歩道整備事業			
実施主体	島内山田町会		
実施日(期間)	令和6年4月~令和7年3月		
実施場所	市道1760号線沿い及び山田町会内		
事業概要	①北アルプスを眺望できる市道1760号線沿いに植樹されたサクラ・カエデの維持管理を2回実施しました。 ②山田町会内の平瀬城跡に至る遊歩道の整備を5回、案内看板を6基設置しました。また、遊歩道沿いの高木に巣箱を5か所設置しました。		
地域づくりの成果・効果	市道1760号線のサクラやカエデはその時期になると風景を一変させるため、新たな名所になっています。 遊歩道は、町会外の散策者が多く訪れている事が確認できました。山田町会で作成した文化財マップが有効であったことがわかりました。 いずれの事業も町会や地区の活性化に貢献していることを実感できました。		
課題	山田町会と近隣町会で取り組んでいますが、高齢化が進み、草刈りや施肥、看板設置など維持管理作業に出られる人が限られています。若い世代や他町会の方々に活動を知っていただいて、魅力発信のお手伝いができる方を増やすことが課題です。		
決算額	a+b+c	財源内訳	
	118,478円	a 100,000円	b 円

a : 本年度の交付金額のうち、この事業に充当した額 b : 前年度の交付金の繰越額のうち、この事業に充当した額 c : この事業に充当したその他の財源の額

② 事業名: 平瀬城跡整備保存活用事業	
実施主体	平瀬古城会
実施日(期間)	令和6年4月~令和7年3月
実施場所	城跡及び登城路

<p>事業概要</p>	<p>松本市特別史跡に指定されている平瀬城跡を地元町会や地区として、年間を通して整備し、地域の活性化の材料としました。</p> <p>1 史跡整備(登城路・本城跡) 5/25 9/21 合計44名参加。</p> <p>2 第4回平瀬城跡狼煙まつり 10/5 午前10時～12時</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、平瀬城跡の存在を広く周知するため、主会場は平瀬城本城跡から川合鶴宮八幡社に移して実施しました。(駐車場、トイレなどの問題やアクセスも勘案。多くの集客が可能な関連史跡を選定) 新しい取組みとして平瀬城跡や島内地区に関わる物品販売を実施しました。 松本城鉄砲隊の演武のほか、援軍で真田鉄砲隊が砲術披露を行いました。 <p>3 学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学3年生の「地域探検」は地区内の史跡や文化施設を巡りました。 染物体験を8/14、8/21の2日間で計27名が参加しました。 R7/1/16に10名が参加して上田城周辺を散策し、城下町の構造などについて学習しました。 <p>4 酒造り</p> <ul style="list-style-type: none"> 島内の米を原料にした「平瀬城」を、地区内の笹井酒造により酒造し、会員限定で販売しました。 									
<p>地域づくりの成果・効果</p>	<p>1 平瀬城跡整備保存活動</p> <p>整備保存作業は令和2年より年2回継続して実施しているため、下田～本城は下草刈り作業程度で、きつい作業は少なくなっています。</p> <p>2 平瀬城跡狼煙まつり</p> <p>令和3年から開始し、第4回(内1回は中止)を迎えました。令和5年より岩原城跡(堀金)や猿ヶ城跡(大町)など他市他地区との連携をしており、平瀬城跡の史跡価値を広める大きなイベントとなっています。</p> <p>イベントは安協など他団体の協力もありますが、運営はほぼ会員が担っています。経験者が多く、事前打ち合わせの時間はあまりないのが現状です。演武など主会場を鶴宮八幡社(平地)で実施としたため、本城への用具運搬人員の手配がなくなり、運営には余裕ができました。</p> <p>課題</p> <p>3 学習活動・成果</p> <p>小学生を対象とした地区史跡や文化施設を回る地区探検コースは、児童や教員に島内を学ぶ機会として、2日間で地区内の水源地・音文・八体殿・武の宮などを巡るコースは定着しつつあります。</p> <p>染物体験も多くの親子が参加している。湧水の冷たさなど島内の自然を学ぶ機会となっています。</p>									
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平瀬以上堰の整備に関しては、山田側からの登城路は松枯れで倒木が多くなり、会員だけでは処理できない作業があります。また、ビーパーなどを使用して作業するため、高齢会員からは参加が厳しいとの声もあります 古城会の会員は町会連合会、公民館町会、関連史跡の代表者など地区横断的な組織にはなっていますが、会員の高齢化が進んでおり、若手の確保が課題になっています。古城会の持続可能なあり方を考える必要があります。 学習活動は、学校からの要請待ちになっています。平瀬城跡をはじめ、島内地区の歴史文化に関わる講師派遣を学校側に呼びかけていますが、学習時間の調整が進まず、なかなか実現がしていません。島内を担う子供たちにとってどのように興味関心を持ってもらうかが課題です。 									
<p>決算額</p>	<p>a+b+c</p> <p>479,250円</p>	<p>財源内訳</p> <table border="1"> <tr> <td>a</td> <td>b</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>330,000円</td> <td>62,591円</td> <td>86,659円</td> </tr> </table>			a	b	c	330,000円	62,591円	86,659円
a	b	c								
330,000円	62,591円	86,659円								

③ 事業名：町会活動等応援事業				
実施主体	島内地区町会連合会			
実施日(期間)	令和6年4月～令和7年3月			
実施場所	島内公民館他			
事業概要	町会連合会及び各種団体において、会議や行事を開催する際の横断幕等を印刷する長尺印刷プリンターの消耗品を購入しました。			
地域づくりの成果・効果	横断幕だけでなく、絵や表などを拡大コピーして様々なイベントで活用し、地域の活性化の一助となりました。			
課題	時にありません。			
決算額	a+b+c	財源内訳		
		a	b	c
	45,369円	38,940円	6,429円	0円

④ 事業名				史跡保全事業
実施主体	歴史文化財調査委員会			
実施日(期間)	令和6年4月～令和7年3月			
実施場所	島内地区内			
事業概要	<p>島内地区にある文化財の標柱・看板の補修を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲干原旧石器出土遺跡、老根田縄文遺跡、陣畑跡、計3本の標柱塗り替え・アルミプレート板取り換えを実施しました。 ・ 建替え用として、新規標柱4本購入しました。 			
地域づくりの成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年の調査で、標柱本体や塗装・基礎に修繕を要するものは、整備を終えることができました。 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回調査から5年を経過していますが、木製標柱は経年劣化の著しい物が出てきています。今後、早い段階で、標柱の名称版の表面、裏面。標柱本体の柱立、塗装、基礎について再調査をする必要があります。 ・ 現在、実際の標柱整備保存活動は、島内史談会が実施していますが、史談会が高齢化が進み、会員減少により会の存続が厳しい状態になりつつあり、整備保全活動が難しくなっています。 ・ 地域の文化財保全の一環として、史跡標柱を建立して周知をすることで、開発等による破壊・消滅を未然に防ぐように郷土住民に喚起したいところですが、現状、保存標柱や看板に興味関心を持ってくれる人が高齢化とともに少なくなっており、事業の必要性を含めて継承が課題となっています。 			
予算額	a + b + c	財源内訳		
		a	b	c
	68,600円	62,009円	6,591円	0円

⑤ 事業名：若者応援事業	
実施主体	島内地区町会連合会
実施日(期間)	令和6年4月～令和7年3月
実施場所	島内地区内

事業概要	<p>「地域づくりセンター強化モデル事業」の提案事業として実施した、若者による活動の提案事業（300千円）が令和5年度で終了となったため、若者の活動の掘り起こしを継続して支援していくために新たな交付金制度を町会連合会として新設しました。</p> <p>4月；事業の提案受付け 5月：町会連合会地域課題検討委員会による審査、採択事業 ①わくわく子ども運動教室事業 ②ハッピーPJ事業 ③桜彩プロジェクト事業 ④けん玉普及事業 の推薦、町会長会で採択事業の承認 6～2月：提案団体による活動の実施 3月：地域課題検討委員会による実施事業の成果等の共有</p>			
地域づくりの成果・効果	<p>地区内で活動する任意団体を支援することで、居場所づくりや交流などが進みました。結果、地域活性化の基盤が整備されました。</p>			
課題	<p>提案団体としては令和5年度と変わらず、新たな活動の掘り起こしに繋がらなかったところが課題でした。 一部の事業は、すすめ方によっては今後さらに発展する可能性を持っていますが、協働する機関の力量も問われることになりそうです。</p>			
予算額	a + b + c	財源内訳		
	200,000円	a	b	c
		200,000円	0円	0円

決算額（計） （①+②+③）	A+B+C	財源内訳		
	911,697円	A	B	C
		730,949円	75,611円	105,137円

A：各事業のaの合計額 B：各事業のbの合計額 C：各事業のcの合計額

(2) 本年度の積立実績の報告

事業名：					
積立目的					
積立期間	年度から 年度まで（本年度 年目）				
積立ての目標金額	円				
積立実績	区分	積立額	積立事業への積立金充当額	差引累計	
	前年度までの積立経過	1年目	円	円	円
		2年目	円	円	円
		3年目	円	円	円
		4年目	円	円	円
		5年目	円	円	円
	本年度の積立実績	D	円	E	円
合計額					
本年度積立金を充当して実施した事業の概要					

